

背景

派遣された弟子たちが帰ってきて、イエス様に宣教活動の報告をします。イエス様は「休んだらいい」と人里離れたところに弟子たちをねぎらいます。しかし、さまよえる大群衆がついてきてしまいます。そこでイエス様が話をされますがだいぶ時間が経って群衆はお腹がすいてきます。弟子たちは人々を解散させて買い物に行かせようとしませんが、イエス様はパンを増やします。このパンが増える奇跡によって満腹した人は、男だけで5千人ですから、女性と子どもを含めると1万人以上はいたでしょう。

巡礼者の体験

イスラエルのガリラヤ湖の周辺に5つのパンと2匹の魚を増やした場所があって、そこが教会になっています。祭壇の下が岩になっていて、この岩の上でイエス様が5つのパンと2匹の魚を配り分けて1万人以上が満腹した、と言われていました。巡礼者がその岩を見つめていると「これは本物だ」と感じると言います。なぜかという、イエス様は愛そのものだからです。イエス様の生き方は、人生どの場面でも愛にあふれています。愛そのものだったら、膨張しました。愛は人に向かうエネルギーです。そうすると、どんどん増えていく。

こんな愛の論理からすれば、5つのパンと2匹の魚が5千人の食べ物になることは十分ありえます。巡礼者はその場で、イエス様の愛のすごさを感じます。わたしたちの間でもそうですが、愛する結果として奇跡が起きます。はじめの愛は人間的な小さなものでしかありません。でも、愛するときに何らかの奇跡が起きて広がります。パンを増やす奇跡は、食事1回分にしかありませんが、イエス様のことを考えると、愛の広がりには莫大で想像もできないほどです。この愛を一体どれほどの人が受け取ったでしょう？ 今、世界のキリスト者は23億人ですが、それだけでなく2千年間の間にどれほどの人がイエス様の愛を受けてきたでしょう？ これから先の人まで考えれば、何100億人になるかもしれません。愛の広がりには莫大で、今に続いています。わたしたちもそれに与っています。

実話

今日は、愛が膨張した1つの実例をお話しします。あるアメリカ在住の信者さんの話です。彼女は、戦後すぐアメリカに渡って結婚されました。アメリカは日本に比べれば豊かでしたが、それでもアメリカ人も必死で働いて生きる時代でした。彼女の家族も、アメリカの肉食文化の中で1カ月分くらいの食料をまとめ買いして生活していました。当時は、20ドルで牛半分という時代でした。あるとき、職場の同僚が、仕事で自分の指を全部切断してしまって工場を首になってしまいました。彼女がふと思いついたのが、今日の福音にもある「あなた方が彼らに食べ物を与えなさい」でした。彼女は、その言葉をどう実践できるか考えた末に、買いだめしていた肉を彼女に全部プレゼントしました。彼女も、家族があってその肉がなくなると困りましたが、向こうの方がもっと大変だと思って全部さしあげました。その時、彼女はこう言いました。「日本人はすぐにお返しとかお礼と考えるけど全くいきりません。もしお礼とかするんだったらわたしではなくて、もっと困っている別の人に恩返しして上げてください。自分にはいらないから。」その人の家から帰って来て、そのことは済んだことにしようと思いました。

それから10年位して、見知らぬ人が自分を訪ねて来て、小さなお菓子か何かを持って来ました。全く知らない人でしたが、家に入ってもらって話を聞いたら、その人はこう言いました。自分が何年前に困っている時に助けられました。その助けた人の話を聞いたら、その人も実は助けられていました。自分は助けてもらう人のつながり(連鎖)で助けてもらっていることが分かりました。でも、自分はその最初の方にどうしてもお礼を言いたかったので、それをたどってきました。そうすると、一番最初があなたでした。あなたが、1か月分の大きなお肉をプレゼントしてくれたから、その愛が別の人を助けて・・・、わたしが一番最後なんです。

10年経っているので、一体どれだけの人に広まったか分かりませんが、たどってきたら元がわかりまし。この女性の話はパンの増加の話と響き合います。愛は、はじめ小さくても確実に広がり

ます。

何かを思い切って人のために差し出す。それも見返りを求めない心で。そうすると、一つの善意が、イエス様がパンを増やされた奇跡のように、膨張して、広がっていきます。徳山教会の私たちの中でも「愛」が増えていくことを願ってミサを続けましょう。

(参考『イエスの生涯を黙想する 第14話 愛の膨張の奇跡』日本 FEBC 英 隆一朗神父